

11/16 「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業 出町 譲 氏 講演会

テレビ朝日ニュースデスクで作家の出町 譲 氏の講演会がふれあいスポーツセンターで開催され、市内中学2年生362人と教員、一般希望者が参加しました。

出町氏は、自身の体験や、自身の人生観に影響を与えた浅野 総一郎 氏の逸話を踏まえて、「失敗しても挑戦することの大切さ」を語りました。

この講演会は、氷見市の教育基本方針の基本理念である「ふるさと氷見を愛し、次世代を担う人づくり」を目指すため、「14歳の挑戦」を体験し、社会の一員として将来の自分の姿や生き方を考え始めた中学2年生を対象に、平成24年から各界の著名人や一流選手らを講師として招き開催しています。



11/18 「越中式定置網」石造モニュメント

氷見市の玄関口である JR 氷見駅前に「越中式定置網」で「ひみ寒ブリ」を獲る姿が描かれた石造モニュメントが設置され、その除幕式が行われました。

この石造は、(有)内生蔵石材店 代表 内生蔵 雄治 氏により寄贈されたものです。

除幕式では、内生蔵氏が「氷見市の玄関口で皆さんをお迎えし、『漁業文化をリードする氷見』を世界にアピールしたい」とあいさつすると、市長が「氷見の漁業文化の発信力が一層高まる」と謝辞を述べ、感謝状が手渡されました。



11/18 目指せ！レジェンドパパ 氷見らぶり～パパ塾

入園前の乳幼児を持つ父親を対象に、パパが主役の子育て講座「ひみらぶり～パパ塾 イタリアンお料理講座」が創作工房ひみで開催されました。

これは地域子育てセンターが、育児中の父親を応援するために、2年前から実施している取り組みです。29年度にはセンター利用者のうち約4割の父親が登録し、さまざまな講座に参加しています。



今回はイタリアンキッチン「オリーブ」のシェフ 梶 敬三氏が、お肉を柔らかくする方法など料理のコツを伝授しました。

参加者の皆さんは協力をしながらポーク料理や手作りドレッシングのサラダなどを調理し、「妻と子どもに作りたい」と語りました。

次回は3月3日(日)にいきいき元気館でファミリーコンサートが開催されます。ぜひご家族みんなで遊びに行ってみてはいかがでしょうか？



11/21 冬場の雪に備え 氷見市除雪対策本部を開所

冬季の雪に備え、氷見市除雪対策本部を道路管理センターに開所しました。小野本部長が「市民のため、万全を期してほしい」と訓示し、除雪車の点検運転が行われました。

今年は、機械除雪および消融雪区間を含め 465.1 kmの道路除雪を行い、うち機械除雪については2台増強し、市全体で総数 161 台態勢で当たります。

気象情報などに留意し、積雪時の交通網を確保するため、この対策本部を拠点に迅速で適切な除雪作業に取り組んでいきます。

皆さんも早めに雪への備えをお願いします。



11/22 郷土の「おいしい」を再発見！ 氷見の食材を用いた料理教室

氷見の食材を用いた料理教室が市内各地で開催されました。これは、子どもたちに郷土の食材や食文化への理解を深めてもらおうと、きときと氷見地消地産推進協議会が市内の児童を対象に取り組んでいる活動です。

11月22日には速川小学校の5・6年生11人が、秋に収穫した新米や、地元速川の特産「さつまいも」、「自然薯」などを使って「さつまいもご飯」や「ネギ入り自然薯のおやき」などを作りました。

同月26日、27日には窪小学校の5年生74人が、地元の食材「ハトムギ」を使って「ハトムギパンケーキ」や「ハトムギオレ」を作りました。

児童は、地元のボランティアの方から食材の栄養や調理法などを学びながら、地元の味を堪能しました。



11/24 水郷稲作の収穫感謝祭

十二町地区の住民でつくる「深田の会」が収穫感謝祭を開催し、朝日丘、十二町小学校の親子連れら約100人が参加しました。

十二町潟周辺の深田で先人が苦労した米作りを学び、新しい地域づくりの輪を広げることを目的に毎年開催しています。

小春日和に恵まれた青空の下、今年5月に田植えをし、9月に稲刈りした30キロのもち米を「ヨイショ！ヨイショ！」の元気な掛け声に合わせて、児童らは一人ずつ杵で餅をつきました。

健康ボランティアの皆さんがつきあがった餅にきなこやあんこをまぶすと、子どもたちは口いっぱい頬張り、笑顔を見せました。



11/25

海浜植物園のクリスマスフェア ポインセチアとシクラメン展

クリスマスフェア—ポインセチアとシクラメン展—が海浜植物園で開催され、約 200 鉢のポインセチアとシクラメンが会場を鮮やかに彩りました。

オープニングコンサートでは、アソカ児童合唱団の皆さんが「くらのの咲くころ」などの合唱を披露し、美しい歌声が会場に響き渡りました。

会場を訪れた子どもたちは「とやまの木」のおもちゃコーナーの積み木や木のボールプール、また今年初めての企画である「段ボール迷路」などを楽しみました。



12/2

原子力災害に備え、親子で学ぶ 原子力防災講演・生徒引き渡し訓練

志賀原子力発電所から 30km 圏内に位置する西部中学校で、全校生徒と保護者ら約 110 人を対象に、原子力防災講習と災害時の生徒引き渡し訓練が行われました。

はじめに、富山県防災・危機管理課の田畑主幹が「放射線から身を守る」と題して講習を行い、生徒らは、志賀原子力発電所や放射線、災害時の対応について学びました。

次に、石川県志賀町で震度 6 弱以上の地震が発生し志賀原子力発電所の原子炉が停止、市の災害対策本部から屋内退避準備の連絡が入ったという想定で引き渡し訓練が実施されました。生徒らは体育館へ避難し、迎えに来た保護者と一緒に順次帰宅し、原子力防災への理解を深めました。



12/2

地域回想法 ～思い出を語り合い認知症予防～

「第 2 回地域回想法フェスティバル I N 氷見」が教育文化センターで行われ、ボランティアに取り組む市民や地元の高齢者ら約 80 人が参加しました。

はじめに、氷見市地域回想法活動ネットワーク連絡会「ほっこり回想クラブひみ」の会員、岡 笑子さんによる昔懐かしい民話の朗読が会場の雰囲気をもたせました。

次に、老人保健施設アルカディア氷見と、高岡市のふしき苑デイサービスの職員による回想法の事例紹介が行われました。結婚式の話などで昔を思い出した参加者はうなづきながら、地域回想法への理解を深めました。

後半には参加者同士がグループになって「冬遊び」について思い出を語り合い、昔を懐かしむ参加者の表情には笑顔が溢れていました。



12/5

犯罪防止に向けて出発！ 年末特別警戒出発式

年末特別警戒出発式が氷見警察署敷地内の氷見市民柔剣道有信館で行われ、氷見市防犯協会や少年指導員等連絡協議会、民間パトロール隊連絡協議会、氷見警察署の関係者ら約 60 人が出席しました。

能島氷見警察署長らの挨拶の後、関係者らは警察車両や各地区の防犯パトロール車に乗車して、市内のコンビニエンスストアや量販店などを巡回し、各種犯罪防止や少年非行防止を呼びかけました。

また、氷見高校の生徒 6 人もコンビニエンスストアやスーパーにチラシを配布し、防犯への注意喚起を行いました。

冬は日暮れが早く、事件や事故が発生しやすくなります。見知らぬ人からの電話やメールなどは詐欺の可能性がありますので、不安なことがあれば、すぐに身内の人や警察に相談しましょう。

相談や要望などは警察相談専用電話「#9 1 1 0 番」をご利用ください。



12/7

ママもパパも笑顔あふれる クリスマス会

地域子育てセンターの「クリスマス会」がいきいき元気館で開催され、市内外の 1～2 歳児の子をもつ親子が約 100 組参加し、クリスマスにちなんだ催しを楽しみました。



第 1 部では、声楽家の磯島 由佳子さん、リトミック講師の米島 夕起子さん、イラストレーターの北山 知絵子さんによる女性 3 人グループ「ティコティコティン」のファミリーコンサートが行われました。子育てに関する歌やパネルシアター、手や体を使った親子ふれあい遊びなど、会場が一体となり盛り上がりを見せました。

第 2 部では、サンタさんが登場し、クリスマスプレゼントを手渡すと、子どもたちは飛び跳ねて喜んだり、初めて見るサンタさんに驚いたりしていました。

会場には終始、イベントを楽しむ親子の笑顔が溢れていました。



12/8

アメリカのクリスマス ジンジャーブレッドハウスを作ろう

小学生 13 人と外国語指導助手 (ALT) 7 人が参加し、国際交流協会が主催する「GINGERBREAD HOUSE EXTRAVAGANZA 2018」がふれあいスポーツセンターの会議室で開催されました。

スノーボールゲーム (友だちの頭の上のボールに、目隠しした子どもが雪に見立てた綿の玉を運ぶゲーム) などを楽しんだ後、ジンジャーブレッドハウスを作りました。

ジンジャーブレッドハウスとはお菓子の家のことで、アメリカでは、家族で作ったこのお菓子の家をクリスマスツリーと同じように、ダイニングや玄関などに飾る習慣があります。

子どもたちは、材料のクラッカーやポッキー、グミなどを「おいしい」と食べながら、それぞれのジンジャーブレッドハウスを完成させました。



12/11

名城大学農学部・氷見高校連携授業・

ごくみ チョービミカレ 猪〜氷見咖喱一の試食会

市と連携協定を結んでいる名城大学農学部と氷見高校の連携授業が行われ、小原学部長の「食べ物でガンは予防できるのか？」と題した講義を農業科学科の2年生19人が受講しました。連携授業は今回が初めてで、食べ物のこげなどが発がん性物質を含んでいることや、食べ物でガンを予防ができないかを調査する研究内容に生徒は熱心に聞き入っていました。



講義の後、農業科学科の食品製造を専攻する3年生6人が開発したイノシシ肉のカレー「ごくみ 猪〜氷見咖喱一」の試食会が行われました。

これは、イノシシの捕獲量が増える中、イノシシをおいしく食するために生徒が自ら開発に取り組み、海洋科学科やビジネス科の生徒と協力し試作の完成に到ったものです。生徒は、はじめに品質の安定したイノシシのチャーシュー化を目指し、次に製造したチャーシューの課題であった「硬い肉質」を解決するため、缶詰で試作したところ圧力鍋と同様の効果が得られ、肉質が軟らかくなった経緯を説明しました。

チャーシューと缶詰のイノシシ肉を試食した小原学部長は「電子顕微鏡でどれだけイノシシの肉が柔らかくなったか分析したい」と興味を示されました。

缶詰は改良を重ね、今後、商品化を目指します。



12/13 春中ハンド開催までカウントダウン！

「第14回春の全国ハンドボール選手権大会」が始まる平成31年3月23日(土)まで残り100日を記念し、カウントダウンボード設置イベントを市役所で開催しました。

比美乃江ハンドボールクラブの6年生15人が、大会の開催日までの日数を表示するカウントダウンボードに「100」の文字をセットしました。

林市長が「素晴らしいおもてなしの大会になるよう市を挙げて努力したい」と挨拶し、児童らは「先輩、頑張れー！」とエールを送りました。

このカウントダウンボードは、大会終了まで市役所1階正面玄関に設置します。

